



筑波大学
University of Tsukuba



かのや
国立大学法人 鹿屋体育大学
NIFS NATIONAL INSTITUTE of FITNESS and SPORTS in KANOYA

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター



Sport has the power to change the world.

It has the power to inspire,

it has the power to unite people in a way that little else does.

Nelson Mandela

修士課程

スポーツ国際開発学共同専攻

Joint Master's Program in International Development and Peace through Sport

オンライン個別相談会を随時開催しています！
以下のQRコードからお気軽に申込みください。



話を聞いてみたい！
インターンシップについて聞きたい！
など気軽に申し込んでね！



鹿屋体育大学パンフレット



かのや
国立大学法人 鹿屋体育大学
NIFS NATIONAL INSTITUTE of FITNESS and SPORTS in KANOYA

【問い合わせ先】
鹿屋体育大学 教務課教育企画係
Tel: 0994-46-4853
Email: kyoumu-s@nifs-k.ac.jp

スポーツと国際開発？

スポーツは、国際社会において社会開発のための重要なツールとして認識されています。スポーツを通じて、教育、ジェンダー、貧困、健康、平和構築など社会課題の解決に取り組む活動が広がるなか、より高度な知識と能力を備えた人材が必要とされています。「スポーツ国際開発学共同専攻」は、スポーツというツールを用いて、国内外で生じている課題の解決に貢献できる人材の育成を目指す修士課程です。筑波大学、鹿屋体育大学、そして日本スポーツ振興センターの三者が共同して、スポーツと国際開発に関する実践的能力を養うプログラムを提供します。学修はすべて英語で行われます。

目的

スポーツ・体育・健康に関する理論的・実践的な知識を英語によって学び、国際平和と友好、豊かな地域社会の創造に寄与できる人材を養成します。

教育目標

4つの能力を身につけることを目標とします。

- ・ 国際情勢と政策および国際的な開発課題に対する知識と分析力の獲得、使命感の育成
- ・ グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力の習得
- ・ スポーツ・体育・健康に関する基礎的知識と実践力の向上
- ・ 国際貢献のためのコミュニケーション力とマネジメント力の向上

本プログラムで養成される能力や特質

- ・ 国際情勢と政策に関する知識とともに、他者や社会への自立・成長、変化・発展、目標達成に対する意志、価値観、そして使命感
- ・ グローバルな俯瞰力と地域社会で生活する人々へのまなざしをもって、実践現場でリーダーシップを発揮できるプラクティショナーとしての突破力
- ・ 世界平和と友好を構築し、人々の生活を豊かにするスポーツ・体育・健康に対する深い理解力
- ・ 国際社会に貢献できるコミュニケーション力とマネジメント力（スポーツ・体育・健康に関連した事業における実践能力、語学力）



専攻長挨拶

山田 理恵

鹿屋体育大学大学院 スポーツ国際開発学共同専攻・専攻長

今日、教育、体力・健康づくり、産業、イベント、観光、環境、政策、国際政治など、スポーツへの関心や効用への期待は多様であり、それに伴って、スポーツの科学的研究のアプローチも多様化してきています。そのようななか、スポーツの新たな価値を探究する学問領域として注目されるのが、本共同専攻が専門とする「スポーツ国際開発学」です。

スポーツによる開発（地域開発、国際開発）の効用や重要性は、すでに認識されてきています。その一方で、スポーツを専門とする立場からの開発への関わり方や開発・援助における課題などについても考察する必要があります。また、その基盤として、さまざまな国々・地域の身体運動文化に対する理解も深められなければなりません。今後さらに、スポーツと開発の関係、スポーツによる開発のあり方について、さまざまな角度からの研究成果が蓄積され、議論が構築されていくことが期待されます。

筑波大学と鹿屋体育大学は、日本スポーツ振興センターとの協同によって、スポーツ国際開発学共同専攻を設置しました。本専攻では、スポーツと開発に関する専門的知識と実践力、スポーツによる開発における効用や課題を科学的に分析・検証できる研究能力と課題解決能力を身につけ、国際的に活躍できる人材の育成をめざしています。

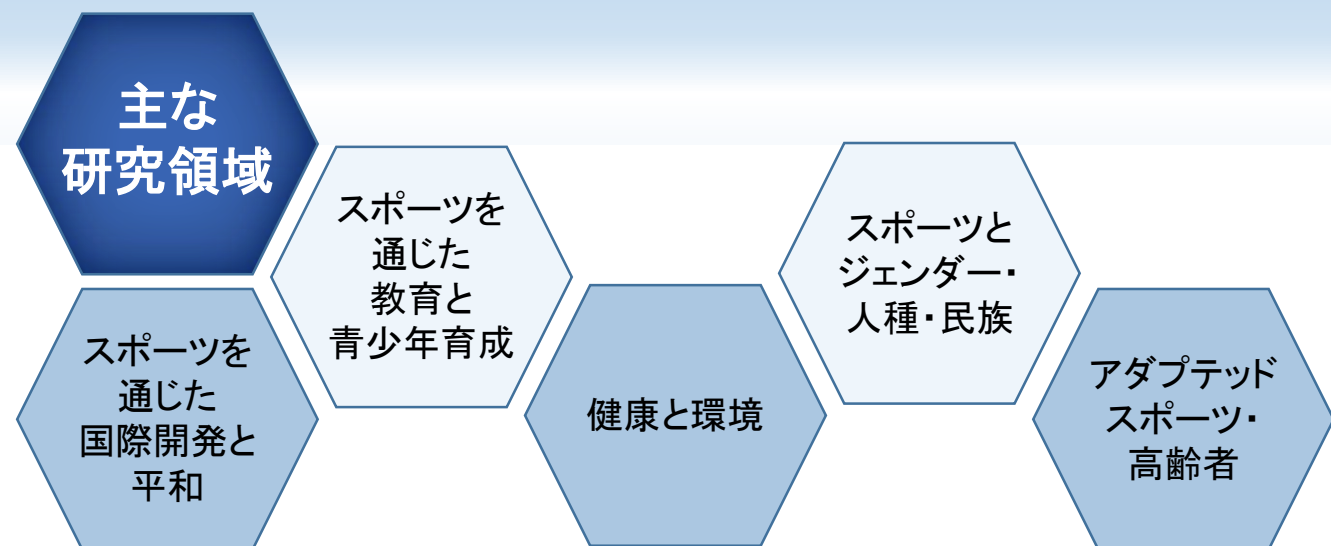
また、そのような教育・研究活動を通して、スポーツ科学分野の教育と研究の充実・発展に貢献できるものと確信しています。そして、そのような本専攻に学ぶ在学生や修了生のみなさん、スタッフとともに、「スポーツ国際開発学」という、スポーツ科学の新たな可能性を追究していきたいと考えています。

佐藤 貴弘

筑波大学大学院 スポーツ国際開発学共同専攻・専攻長

スポーツは大きな力を発揮するポテンシャルを持っています。国連によるトップダウンの政策も重要ですが、草の根レベルで様々な国の人々とスポーツを通じてふれあうことで、仲間という意識を持ちながら、お互いの文化などに対する理解も深まります。SDGs達成するにあたり重要なことは、相手との相違を認識し、尊重することです。もちろん、スポーツの果たす役割はそれだけにとどまりません。一例をあげると、途上国においても、飢餓のみでなく、発展の過程で生活習慣病が起こってきます。そのような健康増進にも、スポーツは役立ちます。スポーツに関する広範な知識を持ち、地球規模の問題に立ち向かう人材が求められているのです。

修了後の進路としては、国連など国際機関、各国の政府機関、国際NGOのほか、グローバルな課題に関する知識と多文化に関する理解を兼ね備えた人材として、国際的な場で活動が行われている民間機関・企業、そして国内外のスポーツ組織・機関などにも採用される可能性は高いと考えています。このような取り組みに興味がありましたら、是非、当専攻に進学していただきたいと思います。みなさんの創造性によって、スポーツはより素晴らしいものになり、世界はより豊かに、健康に、平和に変わっていくことが期待できます。スポーツを通じた世界貢献をとともに進めていきましょう。



カリキュラム

スポーツ・体育・健康に関する科目および国際開発学に関連する科目を学ぶ講義（基礎・応用・関連）、学内外での演習、国内外での実践（On the Job Practice）、そして修士論文または特定課題レポートで構成されています。

科目区分		授業科目
講義 (14単位以上)	基礎	スポーツ国際開発論Ⅰ*
		オリンピックムーブメント論*
		日本文化伝播論*
		スポーツ・文化・社会
		スポーツプロモーション論
		国際スポーツ政策研究
		スポーツマネジメント論
		スポーツと障がい者
		ヘルスポモーション論
		上級コーチ教育論
		研究方法論*
		比較体育科教育論*
	応用	スポーツ国際開発論Ⅱ*
		経営マネジメント論
		プロジェクトマネジメント論
		研究プロジェクトマネジメント
	関連	研究プロジェクトマネジメント（実践）
		開発学原論
		社会開発のための公共政策ⅠA
		社会開発のための公共政策ⅠB
		多文化共生論
		経済開発論
		社会開発論
		セラピューティック・レクリエーション概論
		研究データ管理・分析法
		異文化交流・コミュニケーション
演習 (10～12単位)	学内	スポーツ国際開発学課題演習*
		課題研究*
	学外	JSCセミナー
		JSCプロジェクト
		国外大学セミナー
		国際カンファレンス・セミナー
実践 (6～8単位)	母国	On the Job Practice (Domestic)
		On the Job Practice (International)*
	海外	On the Job Practice (International)*

*必修科目

学生それぞれの興味・関心に合わせて選択できる
テーラーメイド型カリキュラム

すべて英語による学修

筑波大学、鹿屋体育大学、JSCの強みを活かして
遠隔講義システムを用いた授業や研究指導

実践現場における学修を重視
〈OJP例〉
【 母国 】
JSCにてスポーツ国際会議の企画・運営等の支援、被災地の子ども達を支援するNGOにてスポーツ活動 等
【 海外 】
カンボジアにて障がい者理解教育活動
タイの難民キャンプにて青少年育成活動 等

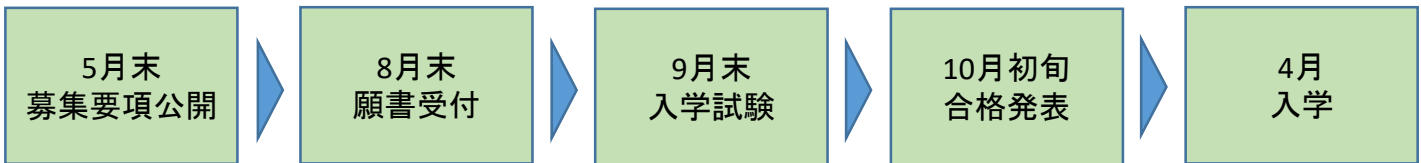
学位

修士（スポーツ国際開発学）筑波大学・鹿屋体育大学
Master of Arts in International Development and Peace through Sport

修了後のキャリアパス

- ・ 本プログラムを修了した者は以下のようなキャリアパスが期待されます。
- ・ 国内外のスポーツ関連組織
- ・ 国内外の開発支援組織
- ・ NGOやNPO法人などの非営利組織
- ・ 国際機関等
- ・ 博士後期課程進学

入学試験



募集人員
8名（鹿屋体育大学 3名、筑波大学 5名）

出願資格
・大学（4年制）を卒業した者・卒業見込みの者
・学士の学位を取得した者・取得見込みの者
・外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び入学時期までに修了見込みの者
・その他
* 出願資格の詳細については、鹿屋体育大学または専攻のホームページに掲載の募集要項をご確認ください。

選抜方法
◇ 英語：出願時にTOEICの公式認定証またはTOEFL受験者用控えスコア、IELTS公式成績証明書の原本を提出*
◇ 論述試験
◇ 口述試験
* 英語外部検定試験および入学試験の詳細については、募集要項をご確認ください。

問い合わせ先

【鹿屋体育大学】
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学教務課教育企画係
TEL: 0994-46-4853 FAX: 0994-46-2533
Email: kyoumu-s@nifs-k.ac.jp

スポーツ国際開発学共同専攻HP（鹿屋版）
<https://www.nifs-k.ac.jp/faculties/development.html>



ホームページ
はこちら！
QRコードから
もとべるよ！



鹿屋体育大学 教員紹介

山田理恵 教授（研究指導担当教員）

- ・研究キーワード
地域開発、文化資源、伝統的運動文化、地域の歴史

地域開発は、国際開発の基盤となることから、スポーツを通じた地域開発に関する研究成果を充実させることも必要です。そこで、地域の史実に由来するスポーツ・イベントや教材、現存する地域に固有の伝統的運動文化等の事例に着目し、スポーツを通じた地域開発からみた文化資源の有用性と課題について研究を進めています。

また、スポーツ・インテグリティの実現をめざして、アスリート保護の法制度やスポーツ界の倫理的課題を考察する共同研究も行っています。

平和な社会の構築に向けて、スポーツを通して、どのような取り組みや実践を行うことができるのか。本専攻で、みなさんと一緒に、スポーツのすばらしい価値と可能性を探究していきたいと思っています。

森克己 教授（研究指導担当教員）

- ・研究キーワード
チャイルド・プロテクション、アスリート保護、スポーツ・インテグリティ、スポーツ法、スポーツ政策

私の専門研究分野である子どものスポーツ指導における体罰・虐待防止のチャイルド・プロテクションは、国連の「国連平和と開発のためのスポーツ事務所」(United Nations Office on Sport for Development and Peace)でもスポーツにおける開発を進める上で重要なテーマと位置付けています。本専攻では、国際開発に関わる重要かつ最先端の問題を取り扱っています。この分野に興味・関心のあるみなさんと一緒に楽しく研究していきたいと思います。

北村尚浩 教授（研究指導担当教員）

- ・研究キーワード
レジャー・レクリエーション、生涯スポーツ学、スポーツ社会学

スポーツ社会学、生涯スポーツ学、レジャー・レクリエーション学が専門です。10年ほど前から、武道の文化的側面と中学校での教育効果について研究しています。

ISLAM MOHAMMOD MONIRUL 准教授（研究指導担当教員）

- ・研究キーワード
転倒予防、高齢者、家庭型運動

高齢者における日常生活動作を自立的に行うためにレジスタンス運動が推奨されています。しかし、運動に際してマシントレーニングなどを使用する方法は、高齢者には価格の面などからしても有用ではないため費用対効果が高いレジスタンス運動法が欠かせません。イスラム研究室ではペットボトル体操を中心としたモニ体操を利用して定期的に高齢者の健康づくりを行っています。モニ体操の特徴は、ペットボトルさえあればどこでもできる、だれでもできるという利点があり、費用がほとんどかからないため途上国の高齢者の健康づくりのためにも適切であり、スポーツを通じた国際開発に貢献できると考えられます。

国重徹 教授（授業のみ担当教員）

- ・研究キーワード
英語教育、多読、異文化理解、メディアトレーニング、アカデミックプレゼンテーション

私は主に多読・多聴による効果的な英語学習プログラムの開発について研究をしています。また、異文化理解や異文化コミュニケーションの重要性や課題、アスリートが英語で適切なメディア対応をできるようにするためのトレーニングプログラムの作成、学生がスポーツ科学分野の研究内容を英語でプレゼンテーションできるようにするための有用な指導方法に関する研究も行っています。本専攻では、Intercultural Exchange and Communicationという授業を、山田先生、ヨーコ・ゼッターランド先生とで担当します。スポーツ国際開発の推進に必要な異文化交流・コミュニケーションの問題について共に考えましょう。

中村勇 講師（授業のみ担当教員）

- ・研究キーワード
国際武道論、柔道

柔道の国際普及現場での経験を生かし、武道、特に柔道の普及史や国際化を研究しています。日本文化伝播論の授業を担当。日本の伝統文化に海外がどのように反応し、受け入れてきたのか、武道、特に柔道の国際化の事例を通して検証します。明治維新の30年後、パリの目抜き通りやアメリカホワイトハウス内に武術道場ができた経緯やその後の展開、伝統を守りつつ国際普及を進めることの困難さなどをディスカッションしながら学んでいきます。

隅野美砂輝 講師（授業のみ担当教員）

- ・研究キーワード
スポーツ経営学

私の研究領域はスポーツマネジメント、中でもスポーツマーケティングや、スポーツ観戦者の消費行動研究を専門にしています。スポーツ国際開発学とは異なる分野ですが、スポーツを通じて国際開発活動を行なっていく際には、スポーツマネジメントやスポーツマーケティングの仕組みを利用する機会もきっとあるはずです。スポーツには世の中を良い方向に変える大きなチカラがあります。そのチカラをどのように生かしていけば良いか？ スポーツ国際開発学共同専攻を通じて学んでいきましょう。



武道館



スポーツパフォーマンス研究センター



サッカー場